

携帯メールについて考える

6 年活動名 学級活動 こんなメールが届いたらどうする？実践者 有馬小学校 安部亮太

1. 平成18年7月

2. ねらい

これから手にするかもしれない携帯電話の特性をつかみ、受信するメールについてどう対応するのが最善かを考えようとする。

3. 活動の流れ

| 活動及び取り組みの流れ | 支援 |
|--|---|
| <p>携帯電話の特性について知る。 携帯メールについて、よい点・問題点を考える。</p> <p>携帯メールの疑似体験を行う。 (1) 番組企画のリレーメール (2) クラスメイトを無視しようとするメール (3) 自分勝手に遊ぼうと誘われたメール (4) お友だちになろうというメール (5) 架空請求メール</p> <p>疑似体験の感想と、何を考えて対応するのかを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にアンケートを取る。 ・ 携帯電話のパンフレットを用意し、携帯電話の特性について理解させる。 ・ 事前に用意したメールを紙ベースで配布する。 ・ なるべく周りの人と内容が同じにならないようにする。 ・ 受信したメールについてどう対応するか話し合う。 ・ 文字によるコミュニケーションだが、裏側には相手の心があることを理解させ、一方通行的な言葉の返信は避けるよう声かけをする。 ・ 身に覚えのないメールには返信しないこと、素直に親へと相談するよう声かけをする。 |

4. 取り組みによって、子どもにどのような変化(成果)があったか。

携帯電話を持っていない子が約7割いた。その中で、携帯電話を持ちたいと思っている子どもはほぼ全員だったので、これから手にするという前提で、携帯電話の特性やメールについて体験を行いながら学ばせた。実際に携帯電話を使えなかったため、ケータイ電話の画像の上にメッセージを載せ、様々なケースのメールを準備し、受信後の対応を考えさせた。「こんなメール、適当に返事しちゃえばいいじゃん」などという声も聞こえたが、時間の経過とともに、「文字の向こう側にある相手の心に失礼のないように届けるためには」ということを考えて、返信内容を考える子どもも出てきた。携帯電話の特性を理解させるとともに、相手を意識するようになったと考える。